

神奈川県弁護士会新聞

発行所
神奈川県弁護士会
横浜市中区
日本大通9番地
☎045-211-7707
URL https://www.kanaben.or.jp/

通常総会開催(予定)のお知らせ
日時 2021年6月15日(火)
場所 神奈川県民ホール(小ホール)(予定)

神奈川県のアウトライ
ンと天稔をモチーフに
した神奈川県弁護士会
のロゴマークです。

山ゆり

近年建物の気密性が高まり、冬でも暖かい家がアピールされるようになって久しいが、我が家は築数十年の木造建物であり、冬は寒いことの上ない▼壁には一応断熱材が貼られているようだが、サッシの性能が悪く、どこからともなく冷気が室内に紛れ込んでくる。その上床からも冷気が伝わってくるので、寒さが身にしみる。夏は涼しくてよいのではないかと思われるかもしれないが、エアコンをかけても逆に冷気が逃げてしまうので、なかなか涼しくならない。夏は夏で色々面倒な季節である▼ただ気密性が悪いことで、外の世界との連続性が保たれていることは、我が家の良い面である。冬から春にかけての朝は、ヒヨドリやの鳴き声が目覚めることに。秋の夜、カネタタキが部屋の隅で鳴いていたこともある。また、風が吹けば雨戸がきしむのこともあった。今年も春一番を感じることができた▼思えば、季節の移り変わりを愛でる文化がある我が国では、自然との連続性を重んじた家屋を作り続けてきたように思う。その意味では、我が家は、伝統的な日本家屋の延長線上にある。我が家に住むことは日本文化の体現である。そう心に言い聞かせ、残寒に耐える毎日である。(千歳 博信)

ふたがわ 二川裕之新会長に聞く ~「チャレンジ! かな弁」をスローガンに~

二川裕之新会長

新会長就任にあたっての抱負をお聞かせ下さい

前例のない新型コロナ禍への対応に前執行部は多大なご苦労をされたことと思います。当然ながら、かような状況下でも、県民への法的サービスを安定して継続していかなければなりませんし、会務を滞らせることもあってはなりません。

まずは前執行部が確立した諸対応策を継承し、更なる改良に努めた上で、

重点的に取り組みたい事柄

新型コロナ禍等のような未曾有の事態に対応するには、従来の手法だけでは十分ではありません。ピンチをチャンスに変えるような、躊躇ない改革努力が必要です。そこで私は、今年度、「チャレンジ! かな弁」をスローガンに、5つの重点課題(略称「5チャレ」)

と掲げます。当会からの発信の強化。弁護士の活動をより多くの県民に知ってもらえるよう、分かりやすい言葉で積極的に発信していくよう努めます。また、執行部が何を考え何に取り組んでいるのか、可能な限り会員に対して情報を開示していきたく考えています。

1 県民ニーズに沿った弁護士の活動領域の充実。弁護士が幅広い分野で元気に活動することが出来ることは、県民にとっても非常に有益なことです。結果として、若手会員にとっては業務基盤の確立にも繋がります。

2 地域に密着した災害対応。近年大きな地震・水害等が多発しており、当地で発生した際に当会として県民に何をどこまでできるのか、他地域で災害が発生した場合に当

3 日弁連・関弁連等との連携強化。関係団体と積極的な連携を図りつつ、当会の活動・運営をしていきます。

新執行部の特徴を教えてください

2名の女性副会長は当会史上初めてであり、男女共同参画の小さな実践といえます。副会長の事務所所在地は関内、新横浜、川崎、相模原と県内

弁護士として大切にしていること

「現場主義」を第一とします。そして、依頼者や関係者の話によく耳を傾けることを心がけています。実際、自ら現地に直接赴くと思いがけない発見もありましたし、依頼者等の話を十分に聴くことで、起死回生の活路を見出すこともあり

「現場主義」を第一とします。そして、依頼者や関係者の話によく耳を傾けることを心がけています。実際、自ら現地に直接赴くと思いがけない発見もありましたし、依頼者等の話を十分に聴くことで、起死回生の活路を見出すこともあり

4 新型コロナ禍にも負けないソフトチェンジを伴う会務の効率化・合理化。将来的な委員会の統廃合なども視野にいれつつ、従来の制度等を不断に見直していきます。

5 日弁連・関弁連等との連携強化。関係団体と積極的な連携を図りつつ、当会の活動・運営をしていきます。

2月6日午後0時半より関内ホール小ホールにて、第25回当会人権賞贈呈式が開催された。今回は、2名及び1団体が、当会人権賞を受賞した。

人権賞贈呈式

2名及び1団体が受賞

県民の皆様へ

「身近で利用しやすく頼りがいのある弁護士・弁護士会」を目指して取り組みます。弁護士の活動をより多く知っていただくために、

聞き手 越川 純哉

また、認定特定非営利活動法人エンパワメントかながわも、デートDV予防プログラムの開発、中高大学生、教職員及び保護者に対する人権教育の提供、行政との協同事業によるデートDVの被害防止のための相談体制構築といった活動が評価され、人権賞を受賞した。

受賞式では、まず当会の剣持京助会長から、コロナ禍のなか感染対策を万全にし、節目といえる

受賞挨拶では、福田さんは横浜での空襲の経験、小谷さんは北満州での戦争経験に触れ、今後も自らの戦争体験を語り継いでいく決意を述べた。

受賞したエンパワメントかながわの阿部代表(右)

表彰状を授与される福田三郎さんと小谷洋子さん

第25回の人権賞について無事に贈呈式を開催できたことを、喜ばしく思う旨の挨拶があった。その後、選考委員会の中西委員長が受賞理由を説明し、人権賞が贈呈された。

受賞したエンパワメントかながわの阿部代表(右)

第8回

人権シンポ in かながわ

2月6日、「人権シンポ in かながわ」が関内ホール(小ホール)とオンラインとの併用により、以下の3つのテーマについて行われた。

実録映画「眠る村」上映

無罪から死刑へ

講演する新倉修名誉教授

今回の人権シンポ前の部は、コロナ禍による緊急事態宣言の中、多数の参加を得た。その前半では名張

の、自白に秘密の暴露等なく、その後捜査の最終段階までに否認に転じ、以後一貫して無実を主張した。

1審は証明不十分で無罪としたが、2審は消去法で犯人と認定して死刑を宣告し、上告も棄却で確定した。

その後再審請求がなされ、第七次再審請求(名古屋高裁)が再審開始を決定したが、異議の申立を受け取り消された。

その後奥西氏は獄死し、妹が請求を引き継いだ。自白と矛盾する王んから話を伺った。

特に沖村さんの話はヤングケアラーの過酷さが伝わるものだった。一例を挙げると家事や母親の世話はほとんど全て自分が行わなければならない環境であり、体力を相当消費する。そのため、授業中は爆睡、お金も時間も無いのでお昼は100円の菓子パンだけで終わらせるといった生活をしてきた。

「ヤングケアラー」を支援するために

その実態と問題〜オンラインで開催

皆さんは、ヤングケアラーを知っているだろうか。私は、人権シンポでこの問題を取り上げるまでは、ヤングケアラーのことは知らなかった。

家族にケアを要する人がいる時に、本来大人が担うと想定されるような責任を負って家族の世話や介護を行う18歳未満の子ども達のことをいう。

ヤングケアラーとは、人権シンポでは、ヤングケアラーについて研究している澁谷智子成蹊大学教授、元ヤングケアラーであった沖村有希子さん、教員時代にヤングケアラーの調査をした藤沢市議会議員の竹村雅夫さ

が、このような生活では、学生時代に友人と交流するなど自分の自由な時間を持つことができないのである。

ただ、ケアの渦中の子どもにとつてはそれが家庭の生活で、過酷であるとは受けとめていない。また、周囲はお手伝いとして感心はするが、過酷さに気づかないため、こ

このように生活では、学生時代に友人と交流するなど自分の自由な時間を持つことができないのである。

後半の青山学院大学の新倉修名誉教授による講演「えん罪と死刑について考える」では、死刑存廃に関する国内外の状況、えん罪による処刑事例の紹介その他死刑を巡る諸問題について、パワーポイントを使って分かりやすい解説がなされ、死刑廃止への関心を一層高めさせられる内容だった。

後半の青山学院大学の新倉修名誉教授による講演「えん罪と死刑について考える」では、死刑存廃に関する国内外の状況、えん罪による処刑事例の紹介その他死刑を巡る諸問題について、パワーポイントを使って分かりやすい解説がなされ、死刑廃止への関心を一層高めさせられる内容だった。

コロナを超えて、世界潮流と

日本の針路を考える

オンライン併用で講演する寺島実郎氏

人権シンポの午後の講演では、「コロナを超えて、世界潮流と日本の針路を考える」と題して、日本総合研究所会長の寺島実郎氏にお越しいただいた。本講演の趣旨は、

現在の経済情勢をどのよう認識すべきか、その考察のヒントを提供するということであった。

まず、日本の貿易相手国に、米国のシェアがこの30年で減少し、政治的な対立とは裏腹に中国のシェアが大幅に上昇

していること、アジアが世界経済の中心となつていく見通しであるという事実を踏まえ、アジアとの関係をどうするかが国の命運を握るといふ指摘があった。

続いて、日本は鉄鋼や自動車産業で成長してきたが、アメリカのいわゆるGAFAMの時価総額はその何十倍にもなっており埋没が加速していること、田安誘導によって国際競争に耐え得るイノ

ベーションや技能が失われつつあることを踏まえ、「健全な危機感」が必要との訴えがなされた。そして、現代は、3つの資本主義、すなわち約400年前から続いてきた産業資本主義のほか、金融技術革命に伴い発生した金融資本主義(ヘッジファンド、金融工学など)及びIT革命に伴い発生したデジタル資本主義が交錯する中にあること、その中で日本を再生

するために、食・医療・防災といった、生身の人間を支える産業の基盤を作らなければならないことが強調された。

再度の緊急事態宣言下において開催が危ぶまれていたが、感染防止対策を講じて開催し、オンラインで同時配信もできたということは、コロナ禍における今後の人権活動の在り方としても重要な意義があると思われる。(会員 齋藤 由也)

研修会

共有物分割を中心とした不動産共有をめぐる紛争処理の実務

2月19日、野竹秀一会員を講師として、共有物分割を中心とした不動産共有をめぐる紛争処理の実務に関するZoomウェビナーによる研修会が開催された。

また、共有不動産をめぐる紛争は相続を原因とする感情的対立を背景とする事案が多いことから、和解成立後に当事者の協力が得られない可能性を考慮して和解条項を定める必要があるなど、様々な点につき慎重に検討する必要がある。

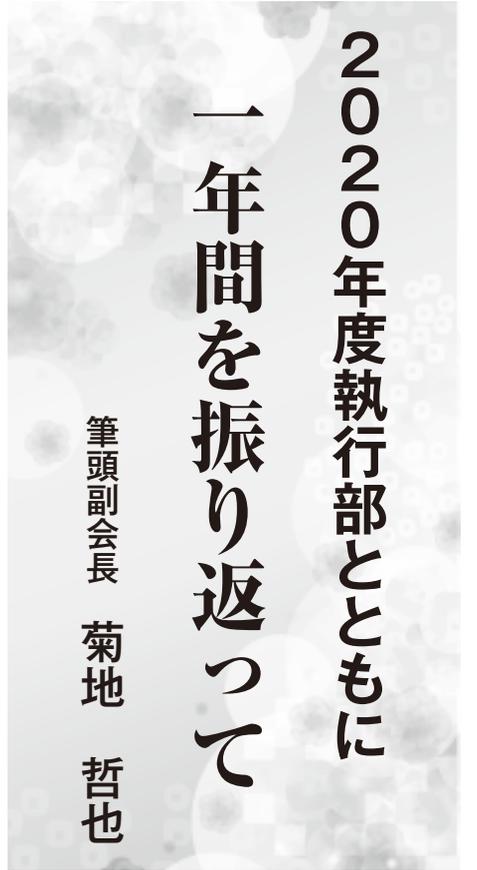
講師の野竹秀一会員

不動産案件を多数扱う野竹会員の経験に基づく解説は、上記のような紛争の特色を踏まえた非常に実用的な内容であった。(会員 成瀬 翠)

2020年度執行部とともに

一年間を振り返って

筆頭副会長 菊地 哲也



私たち執行部はオール60's生まれ、隠しているのどこか昭和レトロな雰囲気を感じ出してしまふ。懐古主義ではないものの、どっぴりかと言えば、使い古されたモノに安心感を覚えてしまふ。

2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大等により困難に直面する一年となった。2020年3月11日、WHOは世界を襲う新型コロナウイルス

ル感染症のパンデミックを宣言した。その後、第2波、第3波と、予測どおり感染症の波は繰り返し国内を襲い、都度感染者を増大させ、二度にわたる緊急事態宣言を経験する年度となった。

就任早々さまざまな対応に追われることになり、行き届かないところも多々あったと思う。有り難かったのは関係する皆さま、会員、事務局からあたたかなフォローがあったことだ。助け合うということの意味を改めて感じる一年間でもあった。

私たち2020年度執行部は表舞台に立つことはほとんどなかった。その横顔を活動の一端とともに紹介したい。

副会長は、前例にとられない会務の合理化を図るという方針をとり、行事や会議の整理、

山手のイギリス館にて

市民窓口の改革等を実行した。理事者会では副会長に自由に議論させ、大事な勘所で決断し総指揮をとった。反則技は、時折見せるはにかんだ笑顔である。

小豆澤副会長は、オンラインによる23条照会への道を開くなどした。また、志をもって取り組まれている人権部門の担当として数多の会長声明や

人権救済事件の勧告の発出等に尽力した。メリハリの効いた語り口で議論をリードする。他方、関係しない議案では聞いていないフリという技も見せる。

佐藤副会長は、精緻な論議を遺憾なく発揮し、理事者会の議論に深さを与え続けてくれた。特に、コロナ禍のなか、関わるすべての人の安全を確保しながら、法律相談をどのように維持してゆくのかなど、考慮すべきことはたくさんあった。関係各所との調整も含めて獅子奮迅の活躍であった。実直の人である。が、喫煙のため時折いなくなる。

吉田副会長は、会計担当として複雑で膨大な会計業務をこなしてきた。するどい突っ込みには定評があり、会館の未来を見すえ、検討のための布石を打った。時々、シニカルなジョークで笑いも取る。誰からも「完璧」に見える。しかし、財布を落としてしまうおちゃめさもある(本紙2月号参照)。

畑中副会長は、災害対策に関する手腕を遺憾なく

発揮した。言うまでもなく、今後予測される災害は新型コロナウイルス感染症だけではない。災害対策委員会の全面的な協力を得て災害対策マニュアルの改訂やBCPの策定を行った。また、支部担当・総会担当としても奔走した。自身のことを「ハンスロ」と名乗り、夜のメールはちょっと怖い。

筆者は、筆頭副会長として市民窓口や、適正化対策室等の協力を得て調

市民会議

～外部からの市民目線～

2月24日、当会会館において2020年度第1回目の市民会議が開かれた。

市民会議は、当会の活動に対して弁護士会外部の市民の皆様から率直なご意見を伺い、それを当会の今後の活動に活かすという目的で、開催されている。

今回は、当会執行部の意見に基づき、「当会の広報活動」、「学校問題への弁護士の関わり」という二つのテーマが議題とされた。

「当会の広報活動」というテーマについては、当会広報委員会から、当会の広報活動の中心がホームページを通じて行われているが、当会の社会的認知度を高める点ではあまり成果が得られていないという問題点が示された。

これに対して、市民会議委員からは、当会ホームページの掲載内容について、困りごとを抱えている一般市民にとって難解な専門用語や必ずしも有益と思われない当たり障りのない情報が見られるという意見、ツイッターなどのSNSについて、どのような情報を提供したいのかが明確ではないという意見などをいただいた。

「学校問題への弁護士の関わり」のテーマについては、まず当会執行部から、学校におけるいじめ、体罰、保護者の学校

を担当会として開催、2月6日、人権シンポジウムを開催できたことをご報告したい。人権にまつわる問題はいつも深く私たちに問いかけてくる、そんな思いを胸に、この一年間取り組んだ。

これからは一会員として、今年度執行部を皆さまと共に支援し、応援してゆきたい。

一年間支えて下さった皆さまに、感謝の辞に代えて。

「学校問題への弁護士の関わり」のテーマについては、まず当会執行部から、学校におけるいじめ、体罰、保護者の学校

を担当会として開催、2月6日、人権シンポジウムを開催できたことをご報告したい。人権にまつわる問題はいつも深く私たちに問いかけてくる、そんな思いを胸に、この一年間取り組んだ。

これからは一会員として、今年度執行部を皆さまと共に支援し、応援してゆきたい。

一年間支えて下さった皆さまに、感謝の辞に代えて。

「学校問題への弁護士の関わり」のテーマについては、まず当会執行部から、学校におけるいじめ、体罰、保護者の学校

を担当会として開催、2月6日、人権シンポジウムを開催できたことをご報告したい。人権にまつわる問題はいつも深く私たちに問いかけてくる、そんな思いを胸に、この一年間取り組んだ。

これからは一会員として、今年度執行部を皆さまと共に支援し、応援してゆきたい。

一年間支えて下さった皆さまに、感謝の辞に代えて。

「学校問題への弁護士の関わり」のテーマについては、まず当会執行部から、学校におけるいじめ、体罰、保護者の学校

を担当会として開催、2月6日、人権シンポジウムを開催できたことをご報告したい。人権にまつわる問題はいつも深く私たちに問いかけてくる、そんな思いを胸に、この一年間取り組んだ。

これからは一会員として、今年度執行部を皆さまと共に支援し、応援してゆきたい。

一年間支えて下さった皆さまに、感謝の辞に代えて。

編集後記

(広報委員会副委員長 堀口 憲治郎)

近所に桜の名所がある。見頃になると屋台が連なり、そこら中で宴が開かれていた。

去年は、「来年があるから」と花見を自粛したが、恐らく今年も難しい。来年こそは花見がしたい、できるように頑張って欲しい、と強く願っている。

デスク 奥園龍太郎
記者 山口 陽

越川 純哉
古西 達夫
渡邊さち穂
千歳 博信